

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社あらた		
事業所名	グループホームあらた		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	令和元年 9月1日	評価結果市町村受理日	令和元年 11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和1年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの庭では花の鑑賞や野菜の成長・収穫の喜びを感じられる様に家庭菜園を実施。その他季節折々の外出行事や、個々の買い物支援など出来るだけ多くの外出の機会を設けている。
居室に関しては、これまでの住まい道具を持ち込み、今までの生活空間を出来るだけ再現し、出来る事の維持、自立への意欲を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年7月に開設され16年目を迎える2ユニットの事業所です。閑静な住宅街にあり、利用者は同じ区画にある系列グループホームと行き来し、町内ともご近所付き合いを継続しています。
事業所は、一人ひとりの認知症の症状や生活習慣に配慮したケアを行うとともに、共同生活の場であるという視点から、ユニットとしての生活や利用者同士の関係を大切にしています。また、職員は、その日ごとによって変わる利用者の様子に丁寧に対応し、利用者が意欲を持って生活場面に取組めるよう、過剰な介護とならないようにその時必要な介護方法とタイミングを見極めていきます。
入居しても家族とのつながりを持てるよう、家族を行事に招待したり、家庭で家族が役割を持って行っていた介護に継続して関わる場面を作るなど、利用者の立場に立った様々な人との交流の支援を行っています。
利用者の希望に沿った外出にも力を入れ、その日の天気や体調を考慮し、近所の庭を眺めての散歩や利用者の自宅に出掛け果実収穫などしています。また、行事予定などによらず屋外でバーベキューを行うなど、少しでも外出の機会を多く持てるように工夫しています。他にも、利用者が楽しみにしている食事では、回転寿司などの外食を取り入れています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・フロア・休憩室掲示板に掲げ、常に留め介護業務に従事している。	利用者が地域の中で尊厳やプライバシーを保ちながら共同生活ができるよう定めた設立時の理念を共有し、日々の支援に当たっています。理念は職員の採用時教育や研修の際に確認し、職員の意識の統一を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩時の挨拶や、ごみ拾い・雪かきのお手伝い。地域のご自宅でゲーテイングされているお庭にお招き頂き、観賞させてもらう等、交流を図っている。	町内会に参加し、利用者が行事に参加したり、職員が地域の廃品回収の際に力仕事を担うなど、地域との交流の場を設けています。また、認知症ケアの専門性を活かし、近隣からの生活の相談を受けるなど、地域の一員として相互の交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、町内会の方々に参加して頂き、事業所の取組や参加した研修の発表、法改正について意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、会議の内容を朝礼等で報告し、入居者への還元に努めている。	地域住民や利用者、市担当者が参加し、平日の夕方定期的に開催しています。事業所の現状や取り組みを報告し、参加者からの意見や要望を聞き、運営に反映しています。	運営推進会議は、役所からの出席が得られる日時を優先しています。そのため、家族が出席しにくく、出席が得られていません。家族に議事録を送付するなど、事業所の現状や活動を周知することから始め、会議への家族の出席を促すことが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて市職員の参加。地域包括支援センター主催の研修へ参加する等、圏域内での協力関係は構築している。	地域包括支援事業所主催の研修への参加や、キャラバンメイト、ハートネット会議への参加などを通じて連携関係があります。利用者の介護認定調査が遅れている場合に役所へ問い合わせするなど、利用者のケアサービスが円滑に行えるよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議において、町内住民参加による検討委員会の設置。定期的な内部研修や、従業員休憩所への掲示を行い、身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	職員は事業所での内部研修や会議、外部での研修を通じて、身体拘束の弊害を学んでいます。事業所の理念を振り返りながら身体拘束の防止に取り組んでいます。身体拘束適正化委員会を設け、身体拘束につながる具体的な事例を検討し、職員の理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修や、従業員休憩所への掲示、法人役員による不定期監査・指導を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人実績のある社労士による講義や、外部研修を通じ理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個人情報同意書、契約書、重要事項説明書等、入居前に十分に時間を頂き説明・質疑応答し、納得・了承の上で署名・捺印頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見箱を設置しているが、面会時に気軽に相談頂ける環境づくり、交流を図っている。	敬老会などの行事を週末に行い、家族が来訪しやすい機会を作っています。管理者は直通の連絡先を伝えたり、気軽に意見が言えるような雰囲気づくりに努め、得られた意見や要望を運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議等は設けているが、随時意見交換出来る職場環境にある。	現場レベルでの運営に関する取り決めは職員にも裁量が与えられており、意見や要望には職員が合議で対応しています。管理者は日常的に職員から意見や要望を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者にも協力・負担頂き、介護職員処遇改善加算の取得による給与・昇給体系の整備。資格取得や外部研修参加によるシフト調整の実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力医療機関による指導や、研修機会を設け、研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	圏域内外の研修参加を始め、協力介護保険施設との定期交流、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与事業所との連携・勉強会を実施。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に状態や生活歴の把握をし、事前面談・施設見学を実施し、開始時の安心に繋がる取組をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や、施設見学、その他電話連絡受け体制を整備し、環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や、事前面談・施設見学時の何気ない会話等からニーズの見極めに努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の見極めを行い、共同生活をしていける環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への招待や、月ごとのご様子を手紙にて発送、外出・外泊支援を実施。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	墓参りや、自宅の庭のガーデニング、年賀状作成等今までしてきた事をそのまま続けていける支援に努めている。	利用者の友人や知人が訪ねてくることがあります。利用者から家族へ連絡を取って欲しいと申し出があった際は、電話で来訪を促すなど支援をしています。職員が墓参りや自宅などへ同行したり、年賀状作成など関係の継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の理解、性格、生活歴を職員でしっかり共有する事で、個々の繋がり・関わり合いを模索し支え合える支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も介護・医療関係者からの情報提供依頼があれば、ご家族の了承の上で提供。その他相談や訪問があれば対応支援している。個人情報保護法の観点から施設からの積極的な取組みは行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者が随時個別訪問や、日常会話や動作からの報告を受け、カンファレンスの開催。	その日、その時の利用者の思いを受け止め、気分転換に出掛けるなどしています。職員が連絡ノートに記載し、意向を家族にも確認しながら、利用者本位の生活が送れるよう検討しています。職員は、利用者の楽しみや好きなことなど利用者の願いを叶えたいという思いを持ち介護計画の立案にもつなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からの聞き取り調査、介護サービス利用者に関しては、了承を頂きこれまでの情報提供を頂く等、職員で共有・把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や朝礼等、個別の情報共有を随時行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、担当者会議、朝礼での共有と、ケアプランの評価をしっかりと行いニーズの把握・作成をしている。	一人ひとりの生活を支える視点と、共同生活という側面から人として幸せな生活を送れるよう、検討しています。家族来訪時にケア会議を行い、本人の意向を含めた計画を立案しています。モニタリングでも、本人の意向に沿ったケアが実践できたかに主眼を置き、理念と尊厳を大切に生活を支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、モニタリング評価を参照し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊、病院の選択、入退院の対応等ニーズに応じられる支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内役員を始め、近隣住民の来訪や交流を図り、安心できる生活支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望通り。 お困りの方へは数か所病院と提携している為、ご紹介することも可能。	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしています。協力医療機関は24時間対応が可能で、通院には看護資格を持つ職員が同行し、普段の様子や体調の変化を伝えていきます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置。日頃から体調管理し、必要に応じて看護職員と病院間での医療連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時職員付き添いし、日頃から情報交換を行い、万が一の協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	方向性の確認は随時行っており、必要に応じて医師を交えての話し合いの機会も設けている。	重度化に対する方針を定め、事業所の方針を家族に説明しています。重度化した場合は、医療行為ができない事業所の限界や本人の身体状況や希望が現状と合っているかなどを話し合い、最善の施設等への移行や、継続してケアの提供を行う方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、日頃から職員が確認・対応出来る様な体制、シフト調整をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民にも協力して頂き、定期的な訓練を行う等、協力体制を築いている。	地域住民も参加し、年2回通報や消火訓練を行っています。地域住民も参加する運営推進会議で災害時の対応を検討するなど、地域との連携に取り組んでいます。備蓄や備品は法人として一括管理し、災害に備えています。	職員全員が、災害時に適切な避難行動ができるよう取り組むことが望まれます。特に夜勤職員など、訓練に参加していない職員がいないようにするとともに、地域との具体的な協力内容を確認するなど、利用者と職員の安全確保に取り組むことが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回の接遇講義を始め、職員の目に付く所へマニュアルを掲示する等、日頃から意識付し、対応を促している。	接遇の基準を定め、その上で一人ひとりの幸せを考え、職員が支援を行っています。利用者をも否定せず、価値観や暮らし方を尊重しています。一方的な関係ではなく、お互いに感謝し合える関係を目指し、理念と共に常に意識しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からの信頼関係作りに尽力し、お話し頂ける環境、支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人の希望を尊重し、意向に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や、服装等、ご本人やご家族から自宅での話を聞く等、希望を聞きながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の工夫や、補助具を使用し、自力摂取出来る様に支援している。体の状態に応じて職員と共に準備や片付けを行っている。	栄養バランスがとれたメニューを提供しています。車いす利用者も、食事の際は椅子に座り、箸やコップなど、各自が使い慣れたものを使用しています。利用者はお菓子作りなどで食べたいものを一緒に作って食べるのが日常となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた大きさや柔らかさへの考慮や好みに応じた水分提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った歯ブラシや口腔洗浄液・歯間ブラシの併用など個々に合わせた支援・介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常チェック表で排泄パターンの把握をし、一人ひとりに合わせた排泄誘導・介助を行っている	トイレでの排泄が継続できるように、排泄パターンの把握を行っています。下着の上げ下げなど、自分でできることを行ってもらい、失敗を減らすことで生活に自信が持てるよう取り組んでいます。また、羞恥心に配慮するとともに、安心して介助を受けられるよう支援する職員との信頼関係も大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事、水分量の調整を行い、必要に応じ、医師へ相談し下剤服用支援をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人様の体調や都合に合わせて調整し、入浴中会話を楽しんだり、希望に沿いながら、満足して頂けるよう支援している	利用者ごとに週二回、午前中に入浴を行っています。希望の時間や夜間などにも対応できる体制があります。気分が乗らない時には無理強いせず、入浴後の楽しみを提案することで、楽しく入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを把握し、その時々状況に応じた安眠や休息支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬説明書を参考に理解・把握に努め、状況に応じ医師の指示・変更時は申し送りや記録で周知を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることを活かした役割を任せたり、毎月の外出やお菓子作り・出前ランチなど日々の生活内での気分転換支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じた買い物や散歩支援、外出行事への参加、ご家族やご友人との外出支援など行っている	利用者の希望に応じ、天気や体調を見ながら、近所のガーデニングを見に行ったり、利用者の自宅庭で果実を収穫したりと気軽に外出しています。事業所内に閉じこもるのではなく、日常生活の延長として外出できるように機会を設け、支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭・通帳はご本人様の了解を得てご家族様・ホームでの管理をしている。買い物や外出時はご本人様に手渡し、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の設置や手紙を出す支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう、毎日の清掃、適度な換気や室温・湿度管理を行い、四季を感じられるような居心地のよい空間作りをしている	ゆったりとした空間に、利用者の希望や利用者同士の関係性に配慮して、テーブルやソファを配置し、利用者がくつろげるように工夫しています。共用空間にはエアコンを設置し、暑さに対応しています。冬場は湿度調節のため、濡れタオルを干すなどしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファでくつろがれたり、入居者様同士で展示物を見ながら談笑・散歩ができる空間作りをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物・飾り物、仏壇を置くなど一人ひとりのライフスタイルに合わせ居心地よく過ごせる配慮をしている	馴染みの家具を配置し、壁には家族や行事の写真を貼るなど、利用者が自分の居室として居心地よく過ごせるように工夫しています。居室で利用する家具や一時的に使用する物品など、事業所から貸し出しもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ネームやトイレなど目立つ大きさでの表示や色合い・位置に配慮したり、安全・安心感を大切に、できる限り自立した生活が送れるよう工夫している		